

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無し
--------------------------------------	----

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

<input type="checkbox"/> 効果的な授業	<input type="checkbox"/> 児童生徒の資質・能力向上	<input type="checkbox"/> 教員研修	<input type="checkbox"/> ICT活用指導力向上
<input type="checkbox"/> 校務の情報化	<input type="checkbox"/> 保護者や地域への情報発信	<input type="checkbox"/> ICT環境整備	<input type="checkbox"/> ICT活用サポート
<input type="checkbox"/> ICT活用推進	<input type="checkbox"/> 学校運営・管理	<input type="checkbox"/> 保護者や地域による学校支援	<input type="checkbox"/> 地域での児童生徒学習支援
<input type="checkbox"/> 学校行事	<input type="checkbox"/> 通級指導教室・特別支援学級	<input type="checkbox"/> その他 ()	

学校又は団体名 (実践時)	静岡県立掛川西高等学校				
団体種 (校種、NPO 等)	高等学校				
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入</small> ※連名での応募も可	応募者※1	吉川 牧人	教諭	キックワ マキト	
	連名者 (3名まで)				
学校や団体への所属年数(応募者)	7	年	ICT夢コンテストの今回を含む応募回数(応募者)	2	回目

実践事例タイトル (30 文字以内・サブタイトル無し)	時間割通りに全ての授業を動画で配信！地方公立高校の休校対策		
教科もしくは分野	教科全般 休校対策	教科の単元がわかる場合 (複数可)	総合的な探究の時間他
対象者 (学年・他)	全学年の高校生		
実践場所 (PC 教室、体育館等)	学校、在宅	実践時期	2020 年 4 月～9 月
活用した ICT 機器、教材、環境等	Google classroom などの G suite for Education。iPad や PC などの動画作成ツール	実践の特長 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択 ※該当する項目の左に●を記入	<input type="checkbox"/> 先進性
			<input checked="" type="checkbox"/> 普及性

アンケートをお願いします。

コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。

(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。

(回答群) ①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞等のニュース媒体から ⑤前から知っている
⑥教育委員会からの紹介 ⑦上司や友人・所属団体からの紹介 ⑧JAPET&CEC ホームページより

番号記入欄	②	⑤						
-------	---	---	--	--	--	--	--	--

- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください (実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・1 頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮ください。
- ・応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照 URL は不可です。
- ・表紙記述 1 頁と実践事例内容記述 2 頁以内、計 3 頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

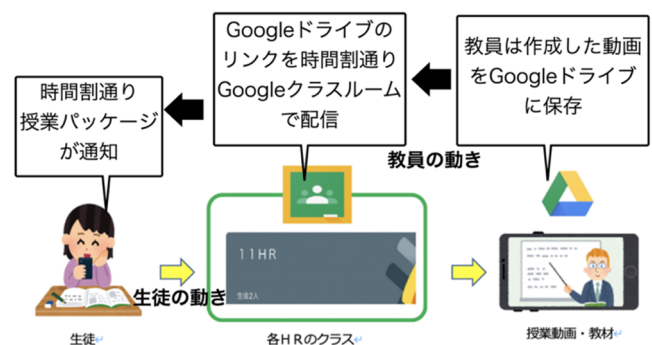
新型コロナウイルスによる臨時休業中に、地方公立高校である本校は ICT の活用により学びを進めた。G suite for Education を活用して約 1000 人の生徒に対して全ての授業で全教員が時間割通りに 2000 本以上の授業動画を配信した。総合的な探究の時間では生徒が主体的・協働的・創造的に医療従事者を応援するメッセージを集め、動画を病院に投影する活動を行った。また本校の取り組みが、静岡県教育委員会から「掛川西モデル」として新聞発表され、県内の公立高校の平常時の活用も含むモデルとなった。

(1) ICT活用の目的とねらい

世界中を襲った新型コロナウイルスにより、3月から突如臨時休業となったため多くの学校は対応ができずパニック同然の状態となった。しかし本校はGoogle classroomやGoogle Driveなどを利用して全授業を時間割通りに配信し、学びを進めるためのICT活用を行うことができた。また幅広い知見を取り入れるためICTに強い地域人材をいち早く登用し、より効果的な対策を行った（社会に開かれた学校）。さらに休業中の医療従事者への応援メッセージ動画を医療センターに投影する活動や、学校再開後の「中学生のWEB体験入学」のサイト作成など、生徒主導の企画・作成による「主体的・対話的で深い学び」を行うことができた。このような活動はSociety5.0を担うクリエイティブでインバーティブな人材育成を行っていると自負している。

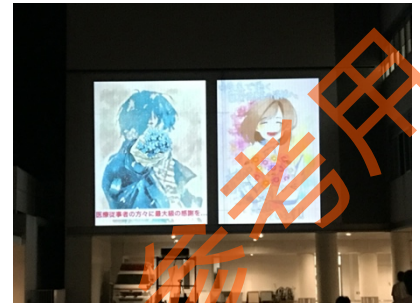
(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

ICT指定校ではない地方公立高校が無料のツールであるG suite for Educationを活用することで、学びを進めることができた。これは東日本大震災の教訓を得て、東海大地震対策として教育クラウドの必要性を痛感し、2014年以降自主的に静岡県教育委員会から全職員、全生徒にアカウントの発行を行なってもらったことが始まりである。またいつでも県内の公立高校に汎用できるよう県教委と連携しながら学校内の活用を行ってきた。このような経験を活かし、2020年4月13日から始まった新型コロナウイルスによる臨時休業に対してGoogle classroomやGoogle Driveを活用することで全ての授業を1ヶ月にわたって時間割通り配信することとなる。成功の背景にICTに強い地域人材をICTアドバイザーとして学校に常駐してもらい、システムの構築、教員研修、動画作成の補助をしてもらったことがある。このような地域との連携は他校にもおよび、地域の多くの中高の教員が視察に訪れた。また地域の工業高校の教員とともに勉強会を行いGoogleのシステムを活用した休校対策の知見をより深めることができた。2020年7月、静岡県教育委員会は県立高校でのICT普及に向けてGoogle classroomを活用した「オンライン職員室」を普及させる方針を表明した。活用を評価され、「掛川西モデル」として静岡県の公立高校全体のモデルとして新聞発表された。ここでは掛川西モデルの平常時の活用にも言及され、日常的なオンラインを活用した教育活動の可能性が示唆された。休校対策として始まった本校の取り組みが、平常時の活用として全県に普及するきっかけとなったことはとても幸いである。



本校では2019年度にカリキュラムマネジメントの一環として生徒に求める資質・能力を定めた。「主体性、協働性、創造性、自己有用感」の4つである。休校中においても各学校が求める資質・能力の育成を念頭に置いた教育がなされるべきではないか。このような本校のカリキュラムマネジメントの中核をなし

ている教育活動の一つが総合的な探究の時間である。2年生が市役所や企業といった地域と連携しながら地域課題を探究する。休校中の4月22日。2年生の総合的な探究の時間で行うはずだった副市長の講演ができなくなった。そこで副市長にお願いしてZoomを使用し、副市長と2年生の代表生徒による掛川市の地域課題についてのディスカッションを行うこととなった。この中で生徒から話題に上がったのが掛川市にある中東遠総合医療センターについてである。医療センターはクルーズ船以降コロナ患者受け入れの拠点となっていた。医療従事者の心身への負担を心配する生徒の質問に対しての副市長の答えは、「まるで戦場のような激務」というものであった。この発言を受け、生徒たちの心に火がついた。休校中ではあったがSNSやGoogle classroomを使って2年生の生徒や教師から応援メッセージやイラストを集めた。そしてこのメッセージを動画にまとめて中東遠総合医療センターの壁面にプロジェクションマッピングとして投影することになった。(本校パソコン部が3年前から9回プロジェクションマッピングを行ってきた実践を活用した。参考：ICT 夢コンテスト 2018年文部科学大臣賞(地域)受賞)病院に投影された生徒からのメッセージにその場に集まった30名程度の医療従事者が涙を流しながら喜びの表情を示してくれた。まさに生徒が主体的、協働的、創造的な力を育み発揮した瞬間であった。

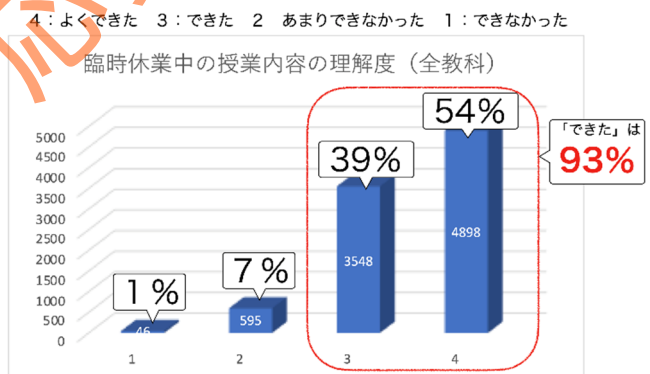


(3) 実践の成果(子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

<生徒との絆>休校中は「帰りのSHR」と称した毎日のアンケート調査を全生徒に行い、各授業の学びの様子と振り返り(習得事項・疑問点等)を答えてもらい毎日教員へフィードバックを行った。その中の一つ、

「臨時休業中の動画授業への取り組み」という質問において「できた」と答えた全教科の平均的な成果は93%に上った。このように全授業の動画配信ときめ細やかな毎日のアンケートとフィードバックにより生徒、保護者と学校との信頼が醸成されていた。また休校最後の登校日に中間テストを実施し、例年通りの進捗と定着を達成することで、学びが進んだ一つの証となった。このことも生徒と学校の絆を深め、学校再開後のスムーズな教育活動の開始へとつながった。

臨時休業中の動画授業への取り組み



<地域との絆>生徒の思いから始まった医療従事者へのメッセージ動画は、生徒、学校、市役所、病院の思いが一つになり、地域の絆が大きく深まった。高校生が地域を思い立ち上がった姿は地域の大人からの大きな信頼を受けることとなり、その後の様々な協働事業(2年生は80グループを作り、地域の80社に地域課題のインタビューを行ったことなど)につながる要因の一つとなった。

<教員の絆>臨時休業の危機を一丸となって乗り越えたことは学校全体の大きな自信となった。また動画作成を協力して行ったことで、教科間の協力体制が構築された。そして他の教員の授業を動画で簡単に見ることができることは公開授業と同等の効果となった。教員全体のICTスキルも大幅に向上し、今振り返ると死に物狂いで行った動画配信は短期間でありながら多大な効果をあげた素晴らしい教員研修であった。

<休校後のICT活用>総合的な探究の時間において中学生体験入学のWebサイトを作成した。本来夏休みに行っていた中学生体験入学が中止となったためである。中学校の教員、生徒、保護者に好評であった。このように生徒が学校や地域の課題を主体的・協働的に克服する資質を身につける素地ができたと思う。